

18 都市農業の推進			
主管課名	生活文化スポーツ部 農政課		
主管課長名	元木 勇治	電話番号	042-481-7586
関係課名 (組織順)	環境政策課, 緑と公園課, 都市計画課, 指導室, 学務課		
目的	対象	農業者, 農地, 市民	
	意図	安全でおいしい農産物を生産し, 市民がそれを消費することができる 農地を保全する 市民が農業とふれあい, 都市農業への理解を深めることができる	
施策の方向	農業経営の安定化や後継者の育成を支援し, 新鮮な農産物の供給や農地の保全・活用を図るとともに, 地産地消や農業体験など, 多様な役割を有する都市農業を推進します。		

< 施策と関連するSDGsの目標（ゴール） >



1 令和3年度の振り返り — 取組実績 (DO)

施策の成果向上に向けた主な取組実績	
施策における2つのアクション (①横断的連携による施策の推進 ②調布のまちの魅力発信)	
<p>(18-1 いきいきとした農業経営)</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内農業者の農業経営力の向上を図るため, 市が認定した認定農業者又は農業経営に意欲のある農業者に対し, ビニールハウスなどの農業用資機材の整備, 購入費用の一部を助成する, 都市農業育成対策事業補助制度を活用した支援を, 22件実施した。 新鮮で環境に配慮した安全, 安心な農産物の生産・供給を推進するため, マインズ農業協同組合と連携し, 希望する102軒の販売農家に対して耕作面積に応じて有機質肥料を配付した。 	<p>①横断的連携による施策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 農業者が安心して農業を継続できるよう, 国, 東京都, 農協, 農業委員会などと連携し事業を推進した。 ■連携テーマ2 「にぎわいとるおいのあるまちづくり」 環境に配慮した栽培を推進する農業者に対し有機質肥料の配付を行い, 市民ニーズの高い新鮮で環境に配慮した安全, 安心な農産物の生産・供給を推進した。 意欲ある農業者の支援として, 国・東京都等の各種補助金の周知, 活用を促進した。 <p>②調布のまちの魅力発信</p> <ul style="list-style-type: none"> 都市農業の振興により, 安全, 安心で新鮮な農産物の供給につながった。
<p>(18-2 農のある地域づくり)</p> <ul style="list-style-type: none"> 新鮮で安全, 安心な調布産の農産物を販売しているマインズ農業協同組合直売会や市内農家の直売所を支援し, 地産地消を促進した。 多様な農業体験の場として, 農業体験ファーム6園236区画の管理運営を支援したほか, 市民農園として市内の計11園552区画(令和4年3月31日現在)を市民に提供するなど市民が農業にふれあえる場の確保に努めた。また, 新たに3園の市民農園開設に向けた準備を進めた。 新型コロナウイルスの感染防止対策を講じながら, 学童農園, ふれあい体験農園の事業を通じて, 農業者と市民との協働, 農業体験の参加者同士の交流などにつなげる中で, 農業を通じたコミュニティ形成や食育の推進を図った。また, 学童農園については, 上ノ原小学校にて新規開設するとともに, 第三小学校における新たな学童農園開設に向けた準備を進めた。 学校における食育の推進として, 市内産農産物を活用した給食の提供や, 学校農園, 社会科見学などの授業で, 農家の方から市内農産物について学ぶ取組を継続して実施した。 農産物品評会の開催を通じ, 農業者の生産意欲及び技術力向上を図った。 	<p>①横断的連携による施策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 食育の推進については, 教育委員会や学校など, 関係部署と連携強化を図った。 ■連携テーマ1 「地域共生社会の実現に向けた取組」 学童農園やふれあい体験農園の事業を通じて, 農業者と市民との協働, 農業体験の参加者同士の交流などにつなげる中で, 農業を通じたコミュニティ形成や食育を推進した。 ■連携テーマ2 「にぎわいとるおいのあるまちづくり」 新鮮で安全, 安心な調布産の農産物を販売しているマインズ農業協同組合直売会などを支援し, 地産地消を促進した。 市民農園の新規開設及び学童農園の新規開設に取り組んだ。 <p>②調布のまちの魅力発信</p> <ul style="list-style-type: none"> 農のある地域づくりを推進することで, 食育や環境教育の場となるだけでなく, 生活環境にうるおいとやすらぎを与え, 良好な住環境の形成を図った。

(18-3 農地の保全・活用)

・都市農地は、安全、安心で新鮮な農産物を供給する場であるだけでなく、災害時における避難場所となること、生活にうるおいとやすらぎを与え良好な住環境を形成すること、食育や環境教育の場となること等、多面的な機能を持っていることから、都市農地の保全を推進するため、生産緑地地区を追加指定した(16件, 0.666ha)。

また、市が維持管理する水路について、水利組合においても市内に残る水田に必要な農業用水を確保するため、維持保全作業を行った6つの水利組合に対し、農業用水路しゅんせつ事業及び軽微な補修作業などの保全作業に係る費用を助成した。

・農園主が主体となって実施する農業体験ファームの運営に対する支援を行い、良好な農地の保全・活用を図った。

・東京都の補助事業である、都市農地保全支援プロジェクトを活用し、防災兼農業用井戸の設置等、農地の持つ防災機能の強化に対して補助を行うことで、貴重な都市農地の保全を図った。

①横断的連携による施策の推進

・関係部署と連携して令和2年度からスタートした調布市農業振興計画の推進に努めた。

■連携テーマ2 「にぎわいとるおいのあるまちづくり」

・市報、市ホームページ、農産物直売所マップなどを活用して農地の多面的機能のPRを行った。

②調布のまちの魅力発信

・都市農業・農地の保全により、都市農地が有する防災機能や景観形成等の保全にもつなげることができた。

(18-4 都市農業振興に向けた推進体制づくり)

・都市農業振興基本法を踏まえ、計画的な都市農業の振興を円滑に推進するため、いきいきとした農業経営、農のある地域づくり、農地の保全・活用の3つの基本方針を定めた調布市農業振興計画(計画期間:令和2年度~令和11年度)に基づく取組を推進した。

①横断的連携による施策の推進

・庁内横断的連携により、調布市農業振興計画を推進した。

■連携テーマ2 「にぎわいとるおいのあるまちづくり」

・多様な農業体験の場づくりとして、市民農園の新規開設及び学童農園の新規開設に取り組んだ。

②調布のまちの魅力発信

・調布市農業振興計画に基づき、農業者、農協をはじめとする多様な主体との連携体制づくりを推進することで、各事業の効果を高めることにつながった。

<令和3年度における施策の成果についての総括>

・農業経営の改善を図るため、認定農業者及び農業経営に意欲ある農業者に対し、都市農業育成対策事業を活用し、農業用資機材の費用の一部を助成することで、農業経営を支援した。

・東京都の補助事業である都市農地保全支援プロジェクトを活用し、防災兼用農業用井戸の設置等、農地の持つ防災機能の強化に対して補助を行うことで、都市農地の保全を図った。

・市民が農業や農家と交流する場である農業体験ファーム6園の管理運営に対する支援により、生産緑地の保全・活用を図った。また、新型コロナウイルスの感染防止対策を講じながら、市民農園、ふれあい体験農園、農業体験ファームなど多様な農業体験事業を実施した。

・多様な農業体験の場づくりとして、市民農園の新規開設及び学童農園の新規開設に取り組んだ。

・農産物を販売しているマインズ農業協同組合直売会や、市内農家の直売所への支援を通じて地産地消の促進に取り組んだ。

・学校における食育の推進として、市内産農産物を活用した給食の提供や学校農園、社会見学などの授業で、農家の方から市内農産物について学ぶ取組を継続して実施した。

・都市農地の保全を図るため、特定生産緑地への移行促進に取り組むとともに、新たな生産緑地地区の指定に取り組み、16件, 0.666haを追加指定した。

・都市農地の保全・活用に関する新たな取組として、平成30年9月1日に施行された「都市農地の貸借の円滑化に関する法律」に基づき、高齢化に伴う担い手不足等、耕作が難しくなった生産緑地について、市内農家への貸借につなげ、都市農地の保全・活用を図った。

まちづくり指標	基準値 (基準年度)	単位	実績値			目標値	達成状況*
			令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和3年度
1 認定農業者の人数	55 (H30)	人	58	60	59	70	▼
2 多様な農業体験の場の新規開設数 (目標値は、令和元～4年度の4箇年累計)	0 (H30)	園	0	1	1	2	◎
3 生産緑地地区の年間追加指定件数 (目標値は、令和元～4年度の4箇年累計)	7 (H30)	件	8	7	16	20	◎
4 市内農家の農産物直売所を利用している市民の割合	56.0 (H30)	%	55.8	52.7	52.4	60.0	▼
【特記事項】							

※R3年度の達成状況は、以下の区分により記号を記入

- ◎：目標値を達成
- ：前年度より向上した
- ▼：前年度より低下した
- ⇒：前年度と同じ
- －：数値未把握（調査未実施など）

◆まちづくり指標の目標達成見込み（令和4年度見込みを含めた現基本計画期間における達成度）

- ・達成見込みを次の区分により記号を記入
- ◎：「目標値達成に向け順調に推移」
 - ：「目標値達成は現状難しいが、前年度より向上する見込み」
 - △：「目標値達成は現状難しく、前年度と同等又は悪化する見込み」

まちづくり指標	達成見込み	要因・課題 (目標達成・未達成の要因・次期基本計画に向けた課題等)
1 認定農業者の人数 (目標値：70人 現状値：59人)	○	令和4年度に、新規で認定農業者の申請を行う意向がある農家が複数名いることから、目標値に近づける見込み。
2 多様な農業体験の場の新規開設数 (目標値：累計2園 現状値：累計2園)	◎	令和4年度において市民農園3園、学童農園1園の新規開設を予定しており、目標を大幅に上回る見込み。
3 生産緑地地区の年間追加指定件数 (目標値：累計20件 現状値：累計31件)	◎	マインズ農業協同組合との連携や、農業だよりへの記事掲載を通じて、生産緑地の追加指定促進を図った。
4 市内農家の農産物直売所を利用している市民の割合 (目標値：60.0% 現状値：52.4%)	○	令和2年度にリニューアルした農産物直売所マップを活用し、直売所の利用促進を図っていく。

2 令和3年度の振り返り — 評価 (CHECK)

◆施策の成果向上に向けて、令和3年度に実施した取組に対する評価

※コロナ禍を踏まえたプロセス、実績、成果の総合評価

総合評価	A	S：「実施した取組において顕著な成果が得られた。」 A：「実施した取組において予定した成果が得られた。」 B：「実施した取組において一定程度の成果が得られた。」 C：「実施した取組においてあまり成果が得られなかった。」 D：「実施した取組において成果が得られなかった。」
評価理由	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい体験農園や学童農園などについては、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、感染対策を講じたうえで実施した。 ・特に、ふれあい体験農園については、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、5月の種まき及び7月の収穫体験は中止としたが、マインズ農業協同組合青壮年部の協力の下、収穫物については調布市社会福祉協議会を通じて、こども食堂などに寄付するなど、創意工夫による有効活用を図った。 ・各種補助金を活用し、意欲ある農業経営者への効果的な支援につなげた。 	

◆**現基本計画期間（令和4年度見込みを含む）における施策の取組状況**

・左欄と右欄において、丸数字で対になるよう記載

計画どおり・計画より進んだ取組等 (現基本計画で予定した成果が十分得られる)	今後の取組の方向 ※近隣自治体との比較があれば併せて記載
①農業経営の支援 ②有機栽培の推進 ③多様な農業体験の場づくり ④都市農業を生かした食育の推進 ⑤都市農地の保全と多面的活用	①市独自の補助事業である都市農業育成対策事業などを通じ、意欲ある農業経営者の経営力強化を図っていく。 ②引き続き、希望する農家への有機質肥料の配付を実施していく。 ③市内の市民農園数は一定の充実が図られていることから、今後の応募状況を踏まえた場づくりを検討していく。 ④引き続き、ふれあい体験農園や学童農園の実施や、教育委員会と連携した市内農産物の学校給食への提供を実施していく。 ⑤引き続き、市民農園の円滑な管理・運営を行うとともに、農業体験ファームの開設促進に取り組む。
計画より遅れた取組等 (現基本計画で予定した成果が得られない)	遅れの理由や次期基本計画に向けた対応課題等 ※近隣自治体との比較があれば併せて記載

◆**現基本計画期間（令和4年度見込みを含む4年間）における施策の成果についての総括**

<p>都市農業振興基本法を踏まえ、計画的な都市農業の振興を円滑に推進するため、多様な主体と連携し、調布市農業振興計画（令和2年度～令和11年度）を策定した。</p> <p>◆いきいきとした農業経営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業経営の改善を図るため、認定農業者及び農業経営に意欲ある農業者に対し、都市農業育成対策事業を活用し、農業用資機材の費用の一部を助成することで、農業経営を支援した。 ・東京都の補助事業である都市農業活性化支援事業を活用し、認定農業者などが行う農業用施設整備等の事業に対して補助することで、農業者の経営改善への取組を支援し、農業経営力の強化を図った。 ・環境保全型農業を推進するため、希望する農家へ有機質肥料の配付を行った。 <p>◆農のある地域づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民が農業や農家と交流する場である農業体験ファームの管理運営に対する支援により、生産緑地の保全・活用を図った。また、新型コロナウイルスの感染防止対策を講じながら、市民農園、ふれあい体験農園、農業体験ファームなど多様な農業体験事業を実施した。 ・多様な農業体験の場づくりの推進として、市民農園の新規開設及び学童農園の新規開設に取り組んだ。 ・農産物を販売しているマイナス農業協同組合直売会や、市内農家の直売所への支援を通じて地産地消の促進に取り組んだ。 ・学校における食育の推進として、市内産農産物を活用した給食の提供や、学校農園、社会見学などの授業で農家の方から市内農産物について学ぶ取組を継続して実施した。 ・コロナ禍で利用が増加している直売所について、従来の紙媒体の農産物直売所マップの発行に加え、マップに付記したQRコードをスマートフォンで読み込むことで、直売所までのルートを案内する機能を備えることにより、市内直売所の利用促進に向けた情報発信を図るなど、計画の円滑な推進に取り組んだ。 <p>◆農地の保全・活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市農地の保全・活用に関する新たな取組として、平成30年9月1日に施行された「都市農地の貸借の円滑化に関する法律」に基づき、高齢化に伴う担い手不足等、耕作が難しくなった生産緑地について、市内農家への貸借につなげ、都市農地の保全・活用を図った。 ・東京都の補助事業である都市農地保全支援プロジェクトを活用し、防災兼用農業用井戸の設置や土砂の流出を防ぐ土留め設置事業や防葉ネットの設置事業等、農地の持つ防災機能の強化や地域住民に配慮した基盤整備事業に対して補助を行うことで、都市農地の保全を図った。 ・指定から30年が経過する生産緑地について、JAマイナスと連携し、特定生産緑地制度の周知を図るなど、特定生産緑地への移行に向けた取組を進めた。 	
評価	A
<p>【評価区分】 現基本計画期間（令和4年度見込みを含む4年間）に対する進捗状況について、S～Dの5段階で評価 S：「計画以上に進捗した。予定以上の取組成果が得られた。」 A：「計画どおりに進捗した。予定した取組成果が得られた。」 B：「概ね計画どおりに進捗した。一定の取組成果が得られた。」 C：「進捗にやや遅れがみられた。あまり取組成果が得られなかった。」 D：「進捗に大きな遅れがみられた。ほとんど取組成果が得られなかった。」</p>	

3 次期総合計画期間を含む中長期的な施策の方向（2030年代を見据えた方向） — (ACTION)

◆施策を取り巻く状況【A】（国，東京都・近隣自治体の動向など）を踏まえた取組の方向

※次期基本計画における重要な視点となる「デジタルトランスフォーメーション（DX）・スマートシティ」, 「カーボンニュートラル」, 「産学官連携」のほか，施策横断的なテーマである「共生社会の充実（パラハート）」, 「安全・安心（防災・減災・防犯・感染症対策）」, 「ソフト・ハードが一体となったまちづくり（中心市街地整備，地域別まちづくり，都市計画道路整備）」に関する状況や方向を記載

・右欄は左欄に対応する丸数字を記載

	市政に与える影響	左記を踏まえた市の対応課題・取組の方向
全国的な潮流・傾向等		
自治体の動向等 東京都や近隣		
その他		

◆施策を取り巻く状況【B】（国，東京都・近隣自治体の動向など）を踏まえた取組の方向

※上記の施策を取り巻く状況【A】の項目以外で，法改正・制度改正などの状況や方向を記載

・右欄は左欄に対応する丸数字を記載

	市政に与える影響	左記を踏まえた市の対応課題・取組の方向
全国的な潮流・傾向等	<p>①平成27年4月に都市農業振興基本法が施行され，都市農業の振興に対する基本理念が定められた。同法に基づき，平成28年5月に都市農業振興基本計画が閣議決定され，都市農地を「都市にあるべきもの」と位置付けるなど，都市農業の振興と農地保全に関する国の基本的な考え方が示された。</p> <p>②平成30年9月に都市農地貸借円滑化法が施行され，農地の貸借がしやすくなった。</p>	<p>①都市農業振興基本法では，地方においても都市農業の振興に関する計画を定めるよう努めることと規定されていることから，令和2年度から令和11年度までを計画期間とした「調布市農業振興計画」を策定したことを踏まえ，計画に基づく取組を推進していく。</p> <p>②市内では「シェア畑仙川」「農業体験ファーム（飛田給地区）」など，都市農地貸借円滑化法を活用して，農のある地域づくりが図られる例が増えている。</p> <p>今後，この制度を活用して，農業者の高齢化や担い手不足への対応や，農地保全にも取り組んでいく。</p> <p>③国，東京都の方向性を踏まえて，令和2年度からスタートした「調布市農業振興計画」に基づく取組を着実に推進していく。</p> <p>④都市農地を有する近隣自治体と連携して国や東京都に対して，更なる都市農地の保全に必要な制度改正等について要望していく。</p> <p>⑤令和4年度は，市内農業者の生産意欲向上及び地産地消の推進と併せて，地域経済の再活性化の視点も踏まえて，調布駅前広場にて市内農産物の直売をメインとしたマルシェを開催する。開催にあたっては，庁内関連部署はもとより，姉妹都市や市関連事業者等と連携し，フードやカフェ，音楽性を加え，「マルシェ ドゥ 調布」と銘打って開催する。当該事業は調布の農業の魅力発信や販路の拡大及び地産地消の推進となるとともに，農商連携にもつながることから，継続して取り組むことが望ましい。</p>
自治体の動向等 東京都や近隣	<p>③都市農業振興基本法による都市農業振興基本計画を受け，東京都では平成29年5月に東京農業振興プランが決定され，今後の東京農業の振興の方向性が示された。</p>	
その他	<p>④都市農地保全推進自治体協議会（市街化区域内農地を保有する調布市を含む都内の38の市区長が加盟。年1回推進フォーラムを開催）が令和元年度に農林水産大臣に対して，相続税納税猶予制度の適用拡大や，農業者への農地確保に対する財政支援策等，都市農地の保全に向けての施策を講ずるよう要望活動を行った。</p> <p>⑤新型コロナウイルス感染症の影響に伴い，低迷していた地域経済の再活性化等を検討し，推進していく必要がある。</p>	

施策18「都市農業の推進」に関連する基本計画事業

計画コード	58	重点P	-	
事務事業	農業経営の支援		総合戦略 ●	
所管部署	生活文化スポーツ部 農政課 農政係			
事業概要	認定農業者などの農業経営に意欲ある農業者が農業を継続できるよう、農業施設整備や事業への支援を実施し、都市農業の経営力を強化する。			
[PLAN▶DO▶CHECK]				
活動内容 (事業費ベース)	計画目標	令和3年度		
		(計画)	(当初予算)	(決算・実績)
	○「都市農業活性化支援事業」を活用した営農集団の支援 ○「都市農業育成対策事業」を活用した意欲ある農業者等の支援	○農業振興計画の推進 ○「都市農業育成対策事業」を活用した農業者への支援 ○「都市農業活性化支援事業」を活用した営農団体への支援 ○有機栽培の促進 ○観光農園事業の支援 ○農業生産者団体への育成支援 ○農業用水路しゅんせつ事業の支援 ○「都市農地保全支援プロジェクト」を活用した防災機能の強化、地域、環境に配慮した基盤整備支援（再掲） ○特定生産緑地の指定に向けた取組（再掲）	○農業振興計画の推進 ○「都市農業育成対策事業」を活用した農業者への支援 ○「都市農業活性化支援事業」を活用した営農団体への支援 ○有機栽培の促進 ○観光農園事業の支援 ○農業生産者団体への育成支援 ○農業用水路しゅんせつ事業の支援 ○「都市農地保全支援プロジェクト」を活用した防災機能の強化、地域、環境に配慮した基盤整備支援（再掲） ○特定生産緑地の指定に向けた取組（再掲）	○農業振興計画の推進 ○「都市農業育成対策事業」を活用した農業者への支援（22人） ○有機栽培の促進 ○観光農園事業の支援（4農園） ○農業生産者団体への育成支援（5団体） ○農業用水路しゅんせつ事業の支援（6組合）（拡充） ○「都市農地保全支援プロジェクト」を活用した防災機能の強化、地域、環境に配慮した基盤整備支援（再掲） ・防災兼用農業用井戸の設置（4箇所） ○特定生産緑地の指定に向けた取組（再掲）
	事業費（千円）	13,360	14,000	10,979
	債務負担行為等による用地取得費	0	0	0
令和3年度取組実績	<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり <input type="checkbox"/> 計画遅れ <input type="checkbox"/> 計画前倒し <input type="checkbox"/> コロナ影響 実績評価 ◎			
説明	令和2年度からスタートした調布市農業振興計画について、多様な主体と連携を図りながら、円滑な推進を図った。 農業経営の安定と向上を目的として、認定農業者及び農業経営に意欲ある農業者（22人）が行う事業に対して、農業用機械購入費等の支援を実施した。 ※経費の2分の1以内で限度額30万円（認定農業者は60万円）を補助 希望する農業者（102人）に対し、有機質肥料の配付を行うことで、有機質栽培を推進した。			
[ACTION]				
今後の方向	<input type="checkbox"/> 現状継続 <input checked="" type="checkbox"/> 有効性改善 <input type="checkbox"/> 効率性改善 <input type="checkbox"/> 財政面改善 <input type="checkbox"/> 市民参加と協働の取組改善			
今後の取組の方向	調布市農業振興計画に掲げた将来像の実現に向けて、計画に位置付けた取組の推進を図っていく。 今後も国・東京都及び市独自の補助制度などを活用しながら、認定農業者及び農業経営に意欲ある農業者に対する支援を引き続き行っていく。 都市農業振興基本法の基本的な方針を踏まえ、都市農業の振興と都市農地の保全を図るため、本事業を通じて農業経営を支援していく。 補助制度の更なる周知を図ることで、都市農業の振興につなげていく。			

※新型コロナウイルスの影響に関連する内容は冒頭に「◆」印を記載しています。

施策18「都市農業の推進」に関連する基本計画事業

計画コード	59	重点P		-
事務事業	多様な農業体験の場づくり			総合戦略 ●
所管部署	生活文化スポーツ部 農政課 農政係			
事業概要	地産地消を推進するとともに、市民が農家の指導を受けながら農作業を楽しむことができる体験ファームの拡充や、農作業を通じて自然に親しみながら生産の喜びを味わうことができる市民農園の確保など、市民が農業とふれあえる機会づくりを推進することで、市民の農業・農地への理解促進を図る。			
[PLAN▶DO▶CHECK]				
活動内容（事業費ベース）	計画目標	令和3年度		
		(計画)	(当初予算)	(決算・実績)
活動内容（事業費ベース）	○農業体験ファームの運営補助	○市民農園の推進	○市民農園の推進	○市民農園の推進 ・市民農園の管理・運営（11園）
	○新規農業体験ファームの開設に向けた農地の確保	○農業体験ファームの推進	○農業体験ファームの推進	○農業体験ファームの推進 ・農業体験ファームの運営補助（241区画）
	○農業体験ファームの施設整備に対する補助	○ふれあい体験農園の推進	○ふれあい体験農園の推進	○ふれあい体験農園の推進
		○学童農園の推進	○学童農園の推進	○学童農園の推進（3校） （拡充）
事業費（千円）		13,594	12,850	14,203
債務負担行為等による用地取得費		0	0	0
令和3年度取組実績	<input type="checkbox"/> 計画どおり <input type="checkbox"/> 計画遅れ <input checked="" type="checkbox"/> 計画前倒し <input type="checkbox"/> コロナ影響			実績評価 ◎
説明	<p>農業体験ファームは、6農園（国領元気村・国領5丁目の畑・あい菜飛田の里・深大寺ときめきの郷・入間ふれあい農園・chofuみらいfarm）において、多くの市民が農作業を行うことで、市民の農業に対する理解を深めることができたほか、農業体験を通して、利用者間の活発な交流が図られた。市民農園の管理・運営、市民が農業とふれあえる機会づくりのためのふれあい体験農園の実施、食育を推進するための学童農園事業の実施により、市民の農業・農地への理解促進を図ることができた。市民農園について、3園の新規開設に向けた取組を進めた。学童農園について、上ノ原小学校に新規開設するとともに、第三小学校においても新規開設に向けた取組を進めることができた。</p>			
				
[ACTION]				
今後の方向	<input type="checkbox"/> 現状継続 <input checked="" type="checkbox"/> 有効性改善 <input type="checkbox"/> 効率性改善 <input type="checkbox"/> 財政面改善 <input type="checkbox"/> 市民参加と協働の取組改善			
今後の取組の方向	<p>農業体験に対する市民ニーズが高いことなども踏まえ、市民の農業・農地への理解促進を図る観点からも、引き続き、新たな農園を確保していくため、農家に対し農業体験ファーム事業の制度等を周知し、協力を得ていく。</p> <p>市民農園について、令和4年度の3園新規開設に向けた準備を進めていく。また、更なる新規開設に向けては、開設後の応募状況を踏まえ検討していく。</p> <p>市民の農業・農地に対する理解促進、食育の推進を図るために、ふれあい体験農園、学童農園事業も継続して実施していく。また、第三小学校で予定されている学童農園の新規開設について、実施に向け円滑な調整を図っていく。</p>			

※新型コロナウイルスの影響に関連する内容は冒頭に「◆」印を記載しています。

施策18「都市農業の推進」に関連する基本計画事業

計画コード	60	重点P	⑤	人と自然が共生するうるおいのあるまち
事務事業	都市農地の保全・活用			総合戦略 ●
所管部署	生活文化スポーツ部 農政課			
事業概要	農地が持つ防災や環境保全などの多面的機能をより一層発揮させるとともに、地域住民に配慮した基盤整備により、貴重な都市農地の保全を図る。			
[PLAN▶DO▶CHECK]				
活動内容 (事業費ベース)	計画目標	令和3年度		
		(計画)	(当初予算)	(決算・実績)
	○都市農地の保全 ○里山の保全と活用	○「都市農地保全支援プロジェクト」を活用した防災機能の強化、地域、環境に配慮した基盤整備支援 ○特定生産緑地の指定に向けた取組 ○農業振興計画の推進(再掲) ○市民農園の推進(再掲) ○農業体験ファームの推進(再掲) ○ふれあい体験農園の推進(再掲) ○学童農園の推進(再掲)	○「都市農地保全支援プロジェクト」を活用した防災機能の強化、地域、環境に配慮した基盤整備支援 ○特定生産緑地の指定に向けた取組 ○農業振興計画の推進(再掲) ○市民農園の推進(再掲) ○農業体験ファームの推進(再掲) ○ふれあい体験農園の推進(再掲) ○学童農園の推進(再掲)	○「都市農地保全支援プロジェクト」を活用した防災機能の強化、地域、環境に配慮した基盤整備支援 ・防災兼用農業用井戸の設置(4箇所) ○特定生産緑地の指定に向けた取組 ○農業振興計画の推進(再掲) ○市民農園の推進(再掲) ○農業体験ファームの推進(再掲) ○ふれあい体験農園の推進(再掲) ○学童農園の推進(再掲)
	事業費(千円)	9,950	13,416	8,763
	債務負担行為等による用地取得費	0	0	0
令和3年度取組実績	<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり <input type="checkbox"/> 計画遅れ <input type="checkbox"/> 計画前倒し <input type="checkbox"/> コロナ影響			実績評価 ◎
説明	都市農地保全支援プロジェクトを活用し、農業者4人に対して、防災兼用農業用井戸の設置に関する補助を実施した。これにより、農地の持つ防災機能など多面的機能の向上につながった。 ※都費により経費の4分の3、市費により1人当たり5万円を補助。 特定生産緑地の指定に向け、制度の周知を行うとともに、引き続き、特定生産緑地指定の申請受付を行った。また、新型コロナウイルスの影響等により申請が遅れている農業者に対して、JAMINズと連携し、個別にアプローチする等、きめ細かな対応を図った。 「都市農地の貸借の円滑化に関する法律」の活用により、都市農地の保全・活用に取り組んだ(9件)。			
[ACTION]				
今後の方向	<input type="checkbox"/> 現状継続 <input checked="" type="checkbox"/> 有効性改善 <input type="checkbox"/> 効率性改善 <input type="checkbox"/> 財政面改善 <input type="checkbox"/> 市民参加と協働の取組改善			
今後の取組の方向	今後も都市農地保全支援プロジェクトを活用し、防災や環境保全などの都市農地が持つ多面的機能をより一層発揮させるための施設整備など、農地保全に意欲的に取り組む農業者及び農業団体が行う農地保全の取組に対して、ソフト・ハード両面に対する支援を継続していく。 都市農地を保全していくため、生産緑地の追加指定と併せて、特定生産緑地の指定に向けた取組を進めるとともに、「都市農地の貸借の円滑化に関する法律」の更なる周知を図るほか、農業経営の支援や市民農園・農業体験ファーム等に取り組むことにより、効果的な都市農地の保全・活用につなげていく。			

※新型コロナウイルスの影響に関連する内容は冒頭に「◆」印を記載しています。